



広報 No.20  
2012年1月  
新春号



平野区  
クリスマスコンサート  
～テレマン室内オーケストラと  
ひらの混声合唱団を迎えて～  
2011年12月14日(水)  
平野区立文化センター  
コミュニティプラザ平野



## 怒 濤

団長 吉原宏一

昨、大晦日森閑とした空気の中に日本中で鐘の音が響きわたりました。

“新年明けましておめでとうございます”

さて、一年の最終日の夜、すなわち除夜あるいは大晦日の夜のことを云いますが、特に昨年は自然界にあって、人類が受ける最大級の大震災・原発事故をはじめ台風による雨害、外国における大洪水等がまさしく“怒り狂う大波、激しく打ち寄せる大波”つまり「怒濤」のごとく人間社会を襲ったのです。

何物にも代え難い生命を奪い、社会生活を破壊したのです。そんな一年の大晦日の除夜の鐘の音は多くの犠牲者への鎮魂の音として、又一人一人が一年の間に身についた煩惱、つまり“心のけがれ”や“心を悩まし身を煩わす”事を取り除く為に打つ音として、一人一人が様々に感じられた事と思います。

さて、その音の響きこそ異なりますが、合唱団におきましては、昨年「大阪市コミュニティ合唱祭」に参

加をしました。参加7混声合唱団の各々の特徴を各人が何かを感じ勉強された事と思います。

“うちが一番や！と思っていたけどまだまだ上合唱団がおった！”とショックを受けられた方もおられたでしょう。

しかしながら、そのショックが次のステップへとつながり、除夜の鐘の音に負けない位の荘厳な合唱音として響きわたることでしょう。

また、今年は昨年の大災害と異なった波が我が団にも押し寄せて来るかも知れません。団の真価を問われるこの年、私達もまさしく「怒濤」のごとくこの一年を頑張りぬいて行きたいと願って止みません。

☆

お気付きになりましたか？「団だより」が20号を迎えました。2006年第1号発刊、A4版片面黒文字一色。第2号から同じくA4版両面、そして更に第3号からはカラー写真が登場。

第20号まで風雪6年、感慨深いものがあります。歴代広報担当委員の大森、石山、柳、山本(真由美)、嶋田、萩原、後藤各氏に心から感謝を申し上げます。



# クリスマスコンサート

## 新たな気概を

～コンサートを聴く区民の高まりに応じて～

大阪市コミュニティ協会平野区支部協議会

事務局長 塚原 剛 様

平野のまちに、温かいつながりの風が吹き始めています。

そうです。毎年12月のクリスマスコンサートに向かって、企画・準備段階からそよぎはじめ、ポスター・チラシ作製のころから大きなうねりとなり、本番では、感動の嵐に結実する、「人とひとつながりの風」！その風を吹かせているのは、ひらの混声合唱団のひとりひとりです。平野のまちで生まれ、平野のまちで育ち、平野のまちに認めていただけるようになった今、自分たち以外にも目をやり、自分たちの後継者の想定も必要かなと思っています。

中学生の各種コンクールでの活躍。日本一のバイオリニストの育った平野。平野の音楽文化のレベルアップに、大きな貢献された皆様に期待申し上げます。

さらに、  
温かい、確実な、連続した「人とひとつながりの風」を！



前日のリハーサル風景



延原先生とソロの先生方



第九演奏前



会場の皆さんとクリスマスキャロル



本番前の男性控え室

## Program

・W.A.モーツァルト：ミサ曲第4番ハ長調 K.317 “戴冠式ミサ”

- |               |          |
|---------------|----------|
| 1. Kyrie      | キリエ      |
| 2. Gloria     | グロリア     |
| 3. Credo      | クレド      |
| 4. Sanctus    | サンクトゥス   |
| 5. Benedictus | ベネディクトゥス |
| 6. Agnus Dei  | アニュスデイ   |

## 〈 休憩 〉

- ・指揮者コーナー：会場のお客様がオーケストラの指揮者に!
- ・W.A.モーツァルト：交響曲 第41番 ハ長調 K.551 “ジュピター”より 第1楽章
- ・F.J.ハイドン：交響曲 第94番ト長調 Hob.I-93 “驚愕”より 第2楽章
- ・L.v.ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 Op.125 “合唱付”より 第4楽章

## クリスマスキャロル

♪会場全員で歌います♪

もろびとこそりて  
まきびとひつじを  
きよしこのよる

- 指揮とお話：延原武春
- ソリスト：ソプラノ/藤田瑞穂 アルト/薬谷佳苗  
テノール/中塚昌昭 バス/篠部信宏
- 演奏：テレマン室内オーケストラ
- 合唱：ひらの混声合唱団

# 新年懇親会

## 藤田瑞穂先生のスピーチ

今年も皆さん健康で、揃ってコンサートを迎えますようお願いしております。

年末のクリスマスコンサートには、多くのお客様にいらして頂けて良かったと思います。また、年を追うごとに、演奏会の形が出来上がって、素敵になって来ています。

去年は発表回数が多く、大曲「戴冠式ミサ曲」にも挑戦し、大忙しの年でした。しかし、厳しい練習を乗り越えたからこそ、思い残すことなく歌うことができたのではないかと思います。

年末には、演奏会後に次の曲を練習するということを経験しました。

このレッスンで、初めての曲を練習しましたが、終わりの方には全体の感じをつかめるようになっていま

した。3～4年前の皆さんだとあの譜面を読むだけでも、大変だったと思います。これも、日頃ハードルを高くして励んでこられた成果ではないでしょうか。

今年も、もう少しゆったりと一つ一つの曲に取り組んでいきたいと思っています。聴きなじみのある曲は、いかに丁寧に歌っていくかが大事です。また、何度も歌っている「第九」もまた新しい気持ちで取り組んでください。

今年の目標は、

- 1 健康に、楽しく歌う。  
(レッスンを休まないようにする)
- 2 自分より若い人を団に勧誘する。  
(団の平均年齢を下げましょう！)

今年も、どうぞよろしくお願いいたします。



藤田先生、竹村先生、塚原事務局長、水田さん、いつも本当にありがとうございます



進行役の坂野さん



美しい音色に癒やされました  
後藤さん



お茶で乾杯です



河内音頭で締めくくり



### 恒例のビンゴゲーム

大森さん、中澤さん、お疲れ様！



### 賛助出演 旭区民合唱団リリオ 進藤さんより

「昨年度のクリスマスコンサートでは大変お世話になりました。

すごく貴重な経験をさせて頂きました。他の賛助出演の方も大変良かったと言っておられました。聴きにきて頂いたリリオの人達にも好評で、皆さん誇らしく思って頂ければと思っております。

2月19日にリリオコンサートがあります。演奏する曲の中の1曲で、ひらの混声合唱団の男性3名が出演して下さいますので、是非皆さん聴きにいらして下さい。」

☆

※「大正フロイデ」コンサートも2月19日です  
我が合唱団の方も賛助出演されます

詳細は「伝言広場」に掲示のチラシで！

コンサート終了後の

「東日本大震災義援金募金」

77,508円

募金いただいた方々に心より感謝  
いたします



写真撮影、練習曲のCD作成、  
他いつもお世話になっていま  
す  
下野さん、感謝！



### ◆選曲小委員会より

2012年度は、「平野吹奏楽団 35周年記念コンサート共演」、「第2回大阪市コミュニティ合唱祭」、「平野区第12回クリスマスコンサート」「平野区民コンサート(予定)」が計画されています。それら演奏会に向けて、以下の曲を練習していく予定です。

・ベートーヴェン作曲「交響曲第9番ニ短調作品125」

より “第4楽章”

- ・バッハ作曲「カンタータ 147番」より、「主よ、人の望みの喜びよ」
- ・フランク作曲「荘厳ミサ曲」より、「天使の糧」
- ・ハイドン作曲 オラトリオ「天地創造」より、「もろもろの天は神の栄光をあらわし」
- ・混声合唱による日本の四季「朧月夜」曲集から“ふるさと”など数曲
- ・平野吹奏楽団との共演曲目：  
チャイコフスキーの「1812年」、「翼をください」、「WAになって踊ろう」、「時代」

### ◆メディア小委員会より

ひらの混声合唱団のホームページを更新しています。

練習日程もアップしていますので、日常적으로ご活用いただければ幸いです。

最新トピックは昨年の大阪市コミュニティ合唱祭の情報アップです。内容は、ひらの混声合唱団の本番の動画(音源あり)と旭区民合唱団リリオさんが提供して下さった写真集です。各出演合唱団の方々の演奏風景などが盛りだくさん載っていますのでご覧ください。また、関連合唱団との交流を深める観点から他合唱団ホームページとの相互リンクもしています。



### コーヒーブレイク

こんな名言？が“音楽のトリヴィア(ポール・サリヴァン著[(有)ストレンジ・ディズ])”に載っていたので紹介する。

・音楽は人が受けなければならないただ一つの雑音である。  
—アレクサンドル・デュマ

・音楽はもともと不愉快なものであり、もともと愛されているあらゆる雑音である—T・ゴーティエ

たしかに、物理的に見ればリズム、音域の高低、速さ、強弱という要素が存在する一種の振動波形である、人によっては雑音かもしれない。“音楽”として認識する脳のメカニズムは、まだ詳しくわかっていないが、楽しいと感じるときは、脳内では快感物質ドーパミンやノルアドレナリンが分泌されていると考えられている。

一般論であるが、若い世代の人間は成長期にあり、覚醒興奮作用を持つ快感物質が過剰に分泌されやすい傾向にあるので、テンポの速い曲や音量の大きいのも、いわゆるロック、ジャズ系が好まれる。一方、我々の年代になると成長期はとっくに過ぎ、脳や体が疲労しやすい状態であるから、これらの過剰興奮による疲労を和らげるゆっくりとしたテンポ、程々の音量を好むようになる。クラシックや抒情歌などは安らぎをもたらしてくれる。

### ～ 編集後記 ～

団だより作成にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。今年も感動を分かちあいましょう！

(萩原・後藤)